

皮膚がんと予防について

皮膚がんの原因は様々な要因が考えられていますが最も多いのは紫外線の影響です。紫外線のエネルギーは細胞の遺伝子に傷をつけやすく、これによって発がんが促されています。その他放射線、ウイルス感染、喫煙、ヒ素などの化学物質も関与するといわれています。

皮膚がんは表皮や皮膚付属器の基底細胞に似た細胞から生じた皮膚がんが高齢者の目や口鼻の周りなど額面に生じることが多いです。

【基底細胞癌（きていさいぼうがん）】

毛芽細胞に分化ないし由来する皮膚がんであり、緩徐ながらも周囲組織へ侵襲性破壊性に増殖する。高齢者の顔面に多く見られる。1センチくらいで気づく青黒っぽい硬いしみに見える。

【有棘細胞癌（ゆうきょくさいぼうがん）】

表皮角化細胞に由来なし分化する皮膚がん。高齢者の日光露出部に好発する。熱傷や外傷後の癒痕にも発生することがある。

皮膚から赤みのある、表面が一部むけたような1～2センチの結節で見つかることが多い。「ボーエン病」は表皮内有棘細胞癌の早期段階とみなされるものであるが、日光紫外線暴露部位でない体幹部四肢に好発する。

【日光角化症（にっこうかくかしょう）】

皮膚有棘細胞癌の早期段階とみなされるもので慢性的な日光紫外線暴露による表皮ケラチノサイト（表皮を構成している細胞）の癌化によって生じる。

高齢者の顔面や頭、手背などに好発し径1センチ程度の赤みのある病変として見られ表面がガサガサしている。外用薬、液体窒素、切除などで治療する。

【悪性黒色腫（あくせいこくしょくしゅ）】

メラノサイト（メラニンと呼ぶ色素を生成する細胞）が癌化したもので転移を生じやすい悪性度の高い腫瘍。黒褐色調のシミや結節で気づくことが多い。



○皮膚がんが疑われたら

皮膚がんが疑われたら、まずダーモスコピーという虫眼鏡の強拡大のようなもので診断して更に怪しい場所の一部をとって組織検査することが多いです。生検といいます。

その結果で癌の切除範囲又切除するべきものかどうか決定します。

○予防について

海水浴、スポーツ、仕事などで長時間の紫外線を受ける場合は、日焼け止めクリームを塗る、日焼け止めが含まれた化粧品を使う、帽子や日傘を使う、長袖を着るなど紫外線を避けましょう。

皮膚がんの発生は若い頃から暴露してきた紫外線の量と程度に左右されます。また、気になる皮膚病変が見られたら近くの皮膚科を受診するのが良いと思います。

水田皮膚科泌尿器科 水田栄一